

**症 例：**65歳，男性。

**主 訴：**左側腹部痛，全身倦怠感。

**家族歴：**父；脊椎カリエス，母；子宮癌，姉；慢性関節リウマチ・乳癌にそれぞれ罹患。

**既往歴：**51歳より振動病，1年前に高血圧を指摘され，近医で薬物療法を受けたことがある。

**現病歴：**平成7年12月頃より左側腹部に鈍痛が出現したため，平成8年1月17日に近医を受診した。平成7年の夏より体重は7kg減少していたが，腹痛以外に嘔吐・下痢などの消化器症状は認めなかった。腹部超音波検査で左後腹膜に腫瘤を指摘され，1月27日に当院外科を紹介された。入院後，CTとMRIで両側の副腎腫瘍が認められ，精査のため当科に紹介された。

**生活歴：**職業は農林業。飲酒歴，喫煙歴なし。常用薬なし。

**入院時現症：**身長158.5cm，体重57kg，体温36.9℃，血圧120/70mmHg，脈拍60/分，整。眼球結膜に貧血なく，眼瞼結膜に黄染なし。口腔粘膜に色素沈着あり。咽頭発赤も扁桃腫大も認めない。甲状腺腫触知せず。左胸鎖乳突筋の後方に直径1cm大までの弾性軟のリンパ節を3個触知するが可動性は良好で，圧痛はない。腋窩・鼠径リンパ節触知せず。胸部理学的所見に異常なく，腹部では肝脾を触知せず。腹水も下腿浮腫もない。直腸診は異常なし。神経学的所見に異常はない。

**入院時検査所見：**赤沈30mm/hr，赤血球数 $338 \times 10^4/\mu\text{l}$ ，ヘモグロビン10.9g/dl，ヘマトクリット32.2%，白血球数 $5,700/\mu\text{l}$ (neutro 18.0%，eos 11.0%，bas 2.0%，mon 9.0%，lym 60.0%)，血小板数 $32.6 \times 10^4/\mu\text{l}$ ，プロトロンビン時間，部分トロンボプラスチン時間，トロンボテストおよびヘパプラスチンテストは正常，フィブリノゲン796mg/dl，総ビリルビン0.3mg/dl，GOT 25IU/l，GPT 19IU/l，LDH 500IU/l(220~450)，ALP 514IU/l(81~231)， $\gamma$ -GTP 66IU/l，コリンエステラーゼ0.83 $\Delta$ pH(0.52~1.42)，アミラーゼ105IU/l，総コレステロール174mg/dl，トリグリセ

リド57mg/dl，BUN 14mg/dl，クレアチニン0.8mg/dl，尿酸4.7mg/dl，Na 141mEq/l，K 4.4mEq/l，Cl 102mEq/l，Ca 8.1mg/dl，P 4.2mg/dl，Fe 69 $\mu\text{g}/\text{dl}$ 。総蛋白7.2g/dl(アルブミン3.5g/dl， $\alpha$ 1-g1 5.0%， $\alpha$ 2-g1 11.0%， $\beta$ -g1 12.9%， $\gamma$ -g1 22.2%)。CRP 0.24mg/dl，ツベルクリン反応 $0.8 \times 0.7$ cm，STS(-)，TPHA(-)，HBsAg(-)，HCV Ab(-)，抗核抗体(-)，CEA 1.5ng/ml，CA 19-9 8.7U/ml。内分泌検査の結果を下表に示す。胸部X線写真ではCTR 47.0%，肺野に異常陰影なし。腹部CT，MRIで両側副腎腫瘍(右 $4 \times 2$ cm，左 $8 \times 7$ cm)が認められ，左副腎は内部不均一で隔壁様構造を有する。傍大動脈領域にリンパ節腫大は認めない。

**入院後経過：**副腎静脈採血を行い，右副腎静脈でアドレナリン<5pg/ml，ノルアドレナリン288pg/ml，ドーパミン8pg/ml，左副腎静脈ではアドレナリン<5pg/ml，ノルアドレナリン516pg/ml，ドーパミン32pg/mlであった。またカルシウム負荷試験では，血清カルシトニンに負荷前29.1pg/mlよりカルシウム投与開始10分後に頂値170pg/mlまで上昇した。副腎腫瘍に対して開腹手術が行われた。

| 内分泌の検査結果        |                              | 正常値         |
|-----------------|------------------------------|-------------|
| TSH             | 1.2 $\mu\text{U}/\text{ml}$  | (0.4~5.3)   |
| fT <sub>4</sub> | 0.96ng/ml                    | (0.97~2.02) |
| fT <sub>3</sub> | 3.27pg/ml                    | (3.4~5.5)   |
| コルチゾール          | 5.4 $\mu\text{g}/\text{dl}$  | (4.9~19.0)  |
| 血漿レニン活性         | 0.17ng/ml/hr                 | (<2.3)      |
| アルドステロン         | <10pg/ml                     | (35.7~240)  |
| アドレナリン          | <5pg/ml                      | (<100)      |
| ノルアドレナリン        | 530pg/ml                     | (100~450)   |
| ドーパミン           | 17pg/ml                      | (<20)       |
| 尿中17-OHCS       | 3.3mg/日                      | (3.4~12.0)  |
| 尿中17-KS         | 2.9mg/日                      | (4.6~18.0)  |
| 尿中アドレナリン        | 1.5 $\mu\text{g}/\text{日}$   | (3.0~15.0)  |
| 尿中ノルアドレナリン      | 135.4 $\mu\text{g}/\text{日}$ | (26.0~121)  |
| 尿中ドーパミン         | 644.8 $\mu\text{g}/\text{日}$ | (190~740)   |

上記症例の解答を募集致します。①診断名と，②診断の根拠を原稿用紙1枚以内におまとめの上，ご所属を明記して下記までお送り下さい。

〒113 東京都文京区本郷5-24-3

医学書院『medicina』編集室

募集締切：1995年10月30日必着

正解者のうち抽選により50名の方に弊社オリジナルテレフォンカードをお送り致します。なお，本症例のディスカッション内容は34巻1号(1997年1月号)に掲載致します。